



やまゆり

学校だより

令和5年1月31日
82号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究主題 「WEBQUを活用し学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点目標 「 小中連携 」

令和5年度 入学説明会を行いました

1月30日(月)の午後2時より、「令和5年度の入学説明会」を行いました。9名の入学生の期待を高め、不安を下げるように心掛けて説明をしました。

まず、生徒会執行部役員が、学校生活の紹介と6年生からの入学に関する質問に答えました。その後、教務主任の栄克先生より、生活や学習、諸経費・準備品について、生徒指導主事の笠田先生より服装や生徒会活動について説明をしました。

午後2時40分からは、児童は3グループに分かれて各学年の授業を見ました。また、保護者は、千葉教頭からPTAの会則、親子安全会について、宮本養護教諭より心身の健康管理について説明を受けました。

午後3:00からは体育着や靴などの注文、制服の採寸をました。児童9名は、理科の授業の時と同じように、とても落ち着いて話を聞いたり、授業を見たりしていました。

保護者の皆様には、ご参加頂きましてありがとうございました。

司会の千葉教頭

生徒会執行部6名の誠意と情熱ある説明



栄克先生の説明



笠田先生の説明



千葉教頭のPTA等の説明



宮本養護教諭の説明



6年生は、各学年の授業を3グループに分かれて見学しました



学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級づくり」・「豊かな心の育成」

本校のいじめ対応や生徒会執行部の発表が高く評価されました

1月21日(土)に参加した文部科学省の「令和四年度全国いじめ問題子供サミット」に参加し、本校のポスターセッションに参加して下さった小学生・中学生・引率の先生方の感想や意見が文部科学省から送られました。

全国の様々な方々から寄せられた意見を大切にしながら、今後もさらにいじめの防止活動を発展させていきたいと思えます。小規模校ではありますが、代表生徒3名の表現力と本校の取り組みを高く評価して頂きました。紹介致します。

他県の小学生の感想・意見

① いじめサミットに参加している他の学校と取り組みが違う。

自助・共助・公助でいじめを減らすことを目的として取り組んでいる。そのための対策として一番力をいれているのが、「友達とのかかわりを広げ、関係を深める」ことだと感じた。学年を超えたつながりも創ろうとしている。また、生徒への面談を2週間に一度行い、話しやすい先生や信用できる先生と面談をする工夫をしていた。

発表が具体的でとても分かりやすかった。

② いじめを無くす学校が多い中で「いじめを減らす」ことに取り組んでいる。

いじめの定義は、「被害者の認知なので、ゼロにすることはできない。」ことを第一に考えて3つの取り組みをしている。

「自助」 ・自分の身を守るために必要な能力をつける。
・班の中で一人一人の存在感を向上させる。

「共助」 ・いじめを止める。
・友人を認め、孤立させない。

「公助」 ・毎日書くノートにいじめや悩みを発信できる工夫をしている。
・先生たちが早期発見して、すぐに相談する。
・二週間に一回全校生徒と先生が相談する。相談したい先生を生徒が選べる。

☆ 生徒が相談したい先生を選べることは、自分の学校でもマネしたい。

③ いじめ防止についてよく考えられている。しかも、とても分かりやすい。参考にしたい。

いじめの防止を3つの方法で積極的に取り組んでいて、すごい！と思いました。

他県の中学生の感想・意見

① いじめの定義やいじめ防止の対策に、新しい視点がある。

いじめ防止の新しい観点が参考になった。「いじめをなくすのではなく、減らす」。また、「いじめられないではなく、いじめられたらどうするのか」を考えて自助に生かすことは初めて聞いた。学年を超えたコミュニケーションづくりや、いじめのサインを毎日発信できる仕組みなど参考になった。また、それを先生が発見しやすい対策にも活用している。

表現方法として、メインのポスター以外にも独立したパネルでアピールしていた。

② 「いじめの被害を減らす！」取り組みに特徴がある。

いじめを自然災害と同じように「起こもの」と考え、自分で自分の身を守る大切さに取り組ん

でいる。特に、学級の班活動で居場所があることや、ノートにいじめのサインを発信できる仕組みや、相談の日を定期的に設定している。防災の「三助」の考え方をいじめに活用してとても良いと思った。

③ いじめを深刻化させない考え方と取り組みが良い。

いじめ防止を自助・共助・公助で活動している。①「自助」は、危険を予測し、回避する能力。「公助」では、いじめが起きない良い人間関係を創ることを大切にする。また、いじめが重大化する前に、友人として止める。「公助」は、生徒のSOSを先生と共有するという取り組みが良い。

④ 「自助」・「共助」・「公助」でいじめを予防し、重大化を防ぐ。

人数が少ない学校で、いじめの予防に真剣に取り組んでいる。また、人数が少ないから出来る取り組みをしている。友人や学年を超えて人間関係を深め、認められていることや孤立させないことで予防を考えていた。このことがとても良いと思った。

⑤ 少ない人数の学校で、縦割り班を使って全校の交流を深める取り組みが良い。

「自助」 ・いじめから身を守る授業をしている。
・班活動で居場所をつくり、友人に認められる活動をしている。

「共助」 ・平和集会をしている。いじめ防止に関する各学年の目標設定と宣言。
・縦割り班の活用。

「公助」 ・毎日の日記に顔マークの絵があり、それにいじめや悩みのサインを出す。
・全校生徒との相談日の設定を定期的に行っている。

⑥ いじめを減らせる取り組みだと思った。

「自助」 ・班活動で居場所づくり。
・いじめから身を守るための知識を増やす授業。

「共助」 ・身近な平和を創る集会。平和宣言。
・縦割り班の工夫。

「公助」 ・若鮎ノートに困ることを発信する。
・生徒と先生の相談日の設定。

⑦ いじめを減らす取り組みを学級の班活動でしていることが良い。

いじめを無くすのではなく、減らす取り組みを毎日の班活動でしている点が良い。また、2週間に一回、先生と相談する日を設定していることもとても良い。

⑧ 「自助」・「共助」・「公助」の3つの方法でいじめを減らす。

「いじめは起こるもの」と考えて、防災の考え方を活用している点が良い。また、いじめアンケートを年に数回行うのではなく、毎日困ったことを発信できる生活ノートの活用が良い。

⑨ いじめを減らす考え方が良い。

3つの防止活動で取り組んでいた。特に班活動で居場所をつくり、どの生徒も安心して生活できる取り組みは良いと思った。また、認められることや孤立させないことなど、毎日の活動で取り組んでいた。予防とともに、早期発見の取り組みは、生活ノートでしていた。相談の日の設定も早期発見や深刻化させないと力みとして良いと思った。

他県の先生方の感想・意見

① いじめの定義をよく理解し、いじめを無くすのではなく「減災」の考え方を基本としている。

特に、学級の班を起点に一人一人の生徒に「居場所」を創る活動が良い。友人に配慮され、嫌なことがなく、不安感を減らすことで活動の主体性を向上させようとしている。

いじめの早期発見では、毎日の生活ノートを活用して生徒のSOSを発信をしやすいしている。全校30名の小規模校だからこそ、いじめを減災し、深刻化させない取り組みを徹底している点がとても良い。

② 「いじめの解決策に死を選択させない」というスローガンが素晴らしい。

防災の3つの観点を生かし、命を守るための取り組みを自助・共助・公助で総合的に取り組んでいる。縦割り班の活用も、交流を広げ深める目的になっている。

③ 現実感のあるいじめ防止対策をしている。

いじめを無くすのではなく、「減らす」ことで、現実感の有取り組みをしている。また、「自助」「共助」「公助」の取り組みが分かりやすく具体的で、とても良いキーワードになっている。

何より、発表をしていた3名の生徒たちが堂々と自信を持って発表していることがとても印象的でした。ありがとうございました。

④ いじめの取り組みの考え方や方法についてとても参考になった。

いじめを無くすのではなく、「減らす」ことを第一にしている。そのための、考えや提案が明確で、しかも分かりやすく説明されていたので、学ぶ事がとても多かったです。

いじめの状態や発生させないための視点が4点ありましたが、そのような視点をさらに大切にしてほしいと思いました。ありがとうございました。

※4つの視点 ① 自分の努力による充実感や達成感 ② 友人に認められる承認感
③ 嫌な言動がない ④ 孤立・孤独していない

⑤ 「自助・共助・公助」の考え方がとても参考になった。

いじめ防止の「合い言葉」として、自助・共助・公助を掲げながら、具体的な取り組みをしている点がとても参考になった。

⑥ 自助・共助・公助の要点がよくまとまり、とても分かりやすかった。

学年だけでなく、学校全体で「いじめを減らす」ことに取り組んでいることがよく伝わりました。生徒たちがよく話し合い、一生懸命取活動していることもとてもよく伝わりました。取り組みだけでなく、表現力も素晴らしかったです。

⑦ いじめを無くすのではなく、「減らす」ことを考えると取り組み方も違うことが分かった。

減災に取り組む考え方はとても参考になった。また、小規模校だが、人数が少ない学校だからできる活動もあり、と手も良い内容であると思った。

⑧ エンカウンターを活用した取り組みをしている。

構成的グループエンカウターの目的を理解して、取り組んでいることが分かった。いじめの定義等の理解やエンカウンター等の知識を活用して組み合わせている。発表においては、要点がよくまとまっており、発表の声も大きくて素晴らしかった！

⑨ 自助・共助・公助の観点から、素晴らしい取り組みをしていました。

生徒の側から、「先生方や教育委員会にお願いしたいこと」等まで考えて取り組んでいることに感心しました。